

小倉百人一首 ①~⑳

- ① 秋の田の かりほの庵の 苫をあらみ わが衣手は 露にぬれつつ
- ② 春過ぎて 夏来にけらし 白妙の 衣ほすてふ 天の香具山
- ③ あしびきの 山鳥の尾の しだり尾の 長ながし夜を ひとりかも寝む
- ④ 田子の浦に うち出でてみれば 白妙の 富士の高嶺に 雪は降りつつ
- ⑤ 奥山に 紅葉踏みわけ 鳴く鹿の 声きく時ぞ 秋は悲しき
- ⑥ かささぎの 渡せる橋に おく霜の 白きを見れば 夜ぞふけにける
- ⑦ 天の原 ふりさけ見れば 春日なる 三笠の山に 出でし月かも
- ⑧ わが庵は 都のたつみ しかぞ住む 世をうち山と 人はいふなり
- ⑨ 花の色は うつりにけりな いたづらに わが身世にふる ながめせしまに
- ⑩ これやこの 行くも帰るも 別れては 知るも知らぬも 逢坂の関
- ⑪ わたの原 八十島かけて 漕ぎ出でぬと 人には告げよ 海人の釣舟
- ⑫ 天つ風 雲の通ひ路 吹き閉ぢよ をとめの姿 しばしとどめむ
- ⑬ 筑波嶺の 峰より落つる 男女の川 恋ぞつもりて 淵となりぬる
- ⑭ 陸奥の しのぶもぢずり 誰ゆゑに 乱れそめにし われならなくに
- ⑮ 君がため 春の野に出でて 若菜つむ わが衣手に 雪は降りつつ
- ⑯ 立ち別れ いなばの山の 峰に生ふる まつとし聞かば 今帰り来む
- ⑰ ちはやぶる 神代も聞かず 竜田川 からくれなゐに 水くくるとは
- ⑱ 住の江の 岸による波 よるさへや 夢の通ひ路 人目よくらむ
- ⑲ 難波潟 短きあしの ふしの間も 逢はでこの世を 過ぐしてよとや
- ⑳ わびぬれば 今はた同じ 難波なる みをつくしても 逢はむとぞ思ふ


小倉百人一首 ⑳～㉑

- | | |
|---|-----------------|
| <input type="checkbox"/> ㉑ 今来むと 言ひしばかりに 長月の | 有明の月を 待ち出でつるかな |
| <input type="checkbox"/> ㉒ 吹くからに 秋の草木の しをるれば | むべ山風を 嵐と言ふらむ |
| <input type="checkbox"/> ㉓ 月見れば ちぢにもものこそ 悲しけれ | わが身ひとつの 秋にはあらねど |
| <input type="checkbox"/> ㉔ このたびは 幣も取りあへず 手向山 | 紅葉の錦 神のまにまに |
| <input type="checkbox"/> ㉕ 名にし負はば 逢坂山の さねかづら | 人に知られで くるよしもがな |
| <input type="checkbox"/> ㉖ 小倉山 峰のもみぢ葉 心あらば | 今ひとたびの みゆき待たなむ |
| <input type="checkbox"/> ㉗ みかの原 わきて流るる 泉川 | いつ見きとてか 恋しかるらむ |
| <input type="checkbox"/> ㉘ 山里は 冬ぞ寂しさ まさりける | 人目も草も かれぬと思へば |
| <input type="checkbox"/> ㉙ 心あてに 折らばや折らむ 初霜の | 置きまどはせる 白菊の花 |
| <input type="checkbox"/> ㉚ 有明の つれなく見えし 別れより | 暁ばかり 憂きものはなし |
| <input type="checkbox"/> ㉛ 朝ぼらけ 有明の月と 見るまでに | 吉野の里に 降れる白雪 |
| <input type="checkbox"/> ㉜ 山川に 風のかけたる しがらみは | 流れもあへぬ 紅葉なりけり |
| <input type="checkbox"/> ㉝ ひさかたの 光のどけき 春の日に | 静ず心なく 花の散るらむ |
| <input type="checkbox"/> ㉞ 誰をかも 知る人にせむ 高砂の | 松も昔の 友ならなくに |
| <input type="checkbox"/> ㉟ 人はいさ 心も知らず ふるさとは | 花ぞ昔の 香ににほひける |
| <input type="checkbox"/> ㊱ 夏の夜は まだ宵ながら 明けぬるを | 雲のいづこに 月宿るらむ |
| <input type="checkbox"/> ㊲ 白露に 風の吹きしく 秋の野は | つらぬきとめぬ 玉ぞ散りける |
| <input type="checkbox"/> ㊳ 忘らるる 身をば思はず 誓ひてし | 人の命の 惜しくもあるかな |
| <input type="checkbox"/> ㊴ 浅茅生の 小野の篠原 忍ぶれど | あまりてなどか 人の恋しき |
| <input type="checkbox"/> ㊵ 忍ぶれど 色に出でにけり わが恋は | ものや思ふと 人の問ふまで |

小倉百人一首 ④①～⑥⑩

- | | |
|--|-----------------|
| <input type="checkbox"/> ④① 恋すてふ わが名はまだき 立ちにけり | 人知れずこそ 思ひそめしか |
| <input type="checkbox"/> ④② 契りきな かたみに袖を しぼりつつ | 末の松山 波越さじとは |
| <input type="checkbox"/> ④③ 逢ひ見ての 後の心に くらぶれば | 昔はものを 思はざりけり |
| <input type="checkbox"/> ④④ 逢ふことの 絶えてしなくは なかなか | 人をも身をも 恨みざらまし |
| <input type="checkbox"/> ④⑤ あはれとも いふべき人は 思ほえて | 身のいたづらに なりぬべきかな |
| <input type="checkbox"/> ④⑥ 由良のとを 渡る舟人 かぢを絶え | 行く方も知らぬ 恋の道かな |
| <input type="checkbox"/> ④⑦ 八重むぐら 茂れる宿の 寂しきに | 人こそ見えね 秋は来にけり |
| <input type="checkbox"/> ④⑧ 風をいたみ 岩うつ波の おのれのみ | くだけでものを 思ふころかな |
| <input type="checkbox"/> ④⑨ みかきもり 衛士のたく火の 夜は燃え | 昼は消えつつ ものをこそ思へ |
| <input type="checkbox"/> ⑤⑩ 君がため 惜しからざりし 命さへ | 長くもがなと 思ひけるかな |
| <input type="checkbox"/> ⑤① かくとだに えやは伊吹の さしも草 | さしも知らじな 燃ゆる思ひを |
| <input type="checkbox"/> ⑤② 明けぬれば 暮るるものとは 知りながら | なほ恨めしき 朝ぼらけかな |
| <input type="checkbox"/> ⑤③ 嘆きつつ ひとり寝る夜の 明くる間は | いかに久しき ものとかは知る |
| <input type="checkbox"/> ⑤④ 忘れじの 行く末までは かたければ | 今日を限りの 命ともがな |
| <input type="checkbox"/> ⑤⑤ 滝の音は 絶えて久しく なりぬれど | 名こそ流れて なほ聞こえけれ |
| <input type="checkbox"/> ⑤⑥ あらざらむ この世のほかの 思ひ出に | 今ひとたびの 逢ふこともがな |
| <input type="checkbox"/> ⑤⑦ めぐり逢ひて 見しやそれとも わかぬ間に | 雲隠れにし 夜半の月かな |
| <input type="checkbox"/> ⑤⑧ 有馬山 猪名の笹原 風吹けば | いでそよ人を 忘れやはする |
| <input type="checkbox"/> ⑤⑨ やすらはで 寝なましものを 小夜更けて | かたぶくまでの 月を見しかな |
| <input type="checkbox"/> ⑥⑩ 大江山 いく野の道の 遠ければ | まだふみも見ず 天の橋立 |

小倉百人一首 ⑥1~⑧0

- | | | |
|-----------------------------|---------------------|-----------------|
| <input type="checkbox"/> ⑥1 | いにしへの 奈良の都の 八重桜 | けふ九重に にほひぬるかな |
| <input type="checkbox"/> ⑥2 | 夜をこめて 鳥の空音は はかるとも | よに逢坂の 関は許さじ |
| <input type="checkbox"/> ⑥3 | 今はただ 思ひ絶えなむ とばかりを | 人づてならで 言ふよしもがな |
| <input type="checkbox"/> ⑥4 | 朝ぼらけ 宇治の川霧 たえだえに | あらはれわたる 瀬々の網代木 |
| <input type="checkbox"/> ⑥5 | 恨みわび ほさぬ袖だに あるものを | 恋に朽ちなむ 名こそ惜しけれ |
| <input type="checkbox"/> ⑥6 | もろともに あはれと思へ 山桜 | 花よりほかに 知る人もなし |
| <input type="checkbox"/> ⑥7 | 春の夜の 夢ばかりなる 手枕に | かひなく立たむ 名こそ惜しけれ |
| <input type="checkbox"/> ⑥8 | 心にも あらで憂き世に ながらへば | 恋しかるべき 夜半の月かな |
| <input type="checkbox"/> ⑥9 | 嵐吹く 三室の山の もみぢ葉は | 竜田の川の 錦なりけり |
| <input type="checkbox"/> ⑦0 | 寂しさに 宿を立ち出でて ながむれば | いづこも同じ 秋の夕暮れ |
| <input type="checkbox"/> ⑦1 | 夕されば 門田の稲葉 おとづれて | 蘆のまるやに 秋風ぞ吹く |
| <input type="checkbox"/> ⑦2 | 音に聞く 高師の浜の あだ波は | かけじや袖の ぬれもこそすれ |
| <input type="checkbox"/> ⑦3 | 高砂の 尾の上の桜 咲きにけり | 外山の霞 立たずもあらなむ |
| <input type="checkbox"/> ⑦4 | 憂かりける 人を初瀬の 山おろしよ | 激しかれとは 祈らぬものを |
| <input type="checkbox"/> ⑦5 | 契りおきし させもが露を 命にて | あはれ今年の 秋もいぬめり |
| <input type="checkbox"/> ⑦6 | わたの原 漕ぎ出でて見れば ひさかたの | 雲居にまがふ 沖つ白波 |
| <input type="checkbox"/> ⑦7 | 瀬を早み 岩にせかるる 滝川の | われても末に 逢はむとぞ思ふ |
| <input type="checkbox"/> ⑦8 | 淡路島 通ふ千鳥の 鳴く声に | 幾夜寝覚めぬ 須磨の関守 |
| <input type="checkbox"/> ⑦9 | 秋風に たなびく雲の 絶え間より | もれ出づる月の 影のさやけさ |
| <input type="checkbox"/> ⑧0 | 長からむ 心も知らず 黒髪の | 乱れて今朝は ものをこそ思へ |

小倉百人一首 ⑧1~⑩0

- | | | |
|-----------------------------|--------------------|-----------------|
| <input type="checkbox"/> ⑧1 | ほととぎす 鳴きつる方を ながむれば | ただ有明の 月ぞ残れる |
| <input type="checkbox"/> ⑧2 | 思ひわび さても命は あるものを | 憂きに堪へぬは 涙なりけり |
| <input type="checkbox"/> ⑧3 | 世の中よ 道こそなけれ 思ひ入る | 山の奥にも 鹿ぞ鳴くなる |
| <input type="checkbox"/> ⑧4 | 長らへば またこのごろや しのばれむ | 憂しと見し世ぞ 今は恋しき |
| <input type="checkbox"/> ⑧5 | 夜もすがら 物思ふころは 明けやらぬ | 閨のひまさへ つれなかりけり |
| <input type="checkbox"/> ⑧6 | 嘆けとて 月やは物を 思はする | かこち顔なる わが涙かな |
| <input type="checkbox"/> ⑧7 | 村雨の 露もまだひぬ 榎の葉に | 霧立ちのぼる 秋の夕暮れ |
| <input type="checkbox"/> ⑧8 | 難波江の 蘆のかりねの ひとよゆゑ | みをつくしてや 恋ひわたるべき |
| <input type="checkbox"/> ⑧9 | 玉の緒よ 絶えなば絶えね ながらへば | 忍ぶることの 弱りもぞする |
| <input type="checkbox"/> ⑨0 | 見せばやな 雄島のあまの 袖だにも | 濡れにぞ濡れし 色はかはらず |
| <input type="checkbox"/> ⑨1 | きりぎりす 鳴くや霜夜の さむしるに | 衣片敷き ひとりかも寝む |
| <input type="checkbox"/> ⑨2 | わが袖は 潮干に見えぬ 沖の石の | 人こそ知らね 乾く間もなし |
| <input type="checkbox"/> ⑨3 | 世の中は 常にもがもな 渚漕ぐ | 海人の小舟の 綱手かなしも |
| <input type="checkbox"/> ⑨4 | み吉野の 山の秋風 小夜ふけて | ふるさと寒く 衣打つなり |
| <input type="checkbox"/> ⑨5 | おほけなく 憂き世の民に おほふかな | わが立つ袖に 墨染めの袖 |
| <input type="checkbox"/> ⑨6 | 花さそふ 嵐の庭の 雪ならで | ふりゆくものは わが身なりけり |
| <input type="checkbox"/> ⑨7 | 来ぬ人を まつほの浦の 夕なぎに | 焼くや藻塩の 身もこがれつつ |
| <input type="checkbox"/> ⑨8 | 風そよぐ ならの小川の 夕暮れは | みそぎぞ夏の しるしなりける |
| <input type="checkbox"/> ⑨9 | 人もをし 人も恨めし あぢきなく | 世を思ふゆゑに もの思ふ身は |
| <input type="checkbox"/> ⑩0 | ももしきや 古き軒端の しのぶにも | なほあまりある 昔なりけり |